

I 実践

1 研究主題

自分の大切さとともに、他の人も大切にしようとする思いが具体的な態度や行動に表れるような、実践的な態度の育成

(1) 主題設定の理由

思いやりの心を実際の言動として表現することを大切にし、自分の良さを認めるとともに他者の良さを認め合うことで、より良い人間関係を築いていける児童を育てることを目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ① 道徳や生活科、特別活動、総合的な学習の時間における人権教育の充実
- ② 体験・交流ができる場の設定

2 実践内容

(1) 道徳の取り組み

ア ハートフルコーナーの設置

本校では、道徳科の時間を中心に友達との関わりの中で心に響いたことや嬉しいと感じたことをハートフルカードに書いている。そして、学級みんなに紹介できるハートフルコーナーに掲示することで、多くの感動体験や友達の良さを共感できるようにしている。

イ 人権週間での取り組み

人権週間に合わせて、人権意識を高めるために全学級でDVD鑑賞を行った。児童から、「人に優しくすることの大切が分かった」、「差別をなくしたい」、「ごめんねと言えるようになりたい」などの感想があり、人権について考える機会となった。

ウ 人権教室

第3学年では人権擁護委員を招き、いじめをテーマにした人権教室を行った。「いじめは絶対悪い」ということを学び、いじめを絶対にしないという気持ちをもてたり、いじめを見付けたらどうすべきか考えたりすることができた。

(2) 特別活動や総合的な学習の時間等の取組

ア いじめ0集会

運営委員が中心となり行われたいじめ0集会では、各学級がいじめをなくすために考えたスローガンを発表した。いじめ0を目指し、全校児童が一体感をもつことができた。



【全学級のスローガンの掲示】

イ 異学年交流

各学期に一回ロング昼休みの時間に縦割り班活動を行っている。全校児童を12グループに分け、年間を通して様々な集団活動に取り組むことによって、異年齢児童相互の親睦を深めたり、他者への思いやりの心を養ったりすることを目指している。異学年交流を通して、高学年の児童は、どの学年の児童でも楽しく遊べるよう工夫したり、思いやりをもって接したりする

態度が育ってきた。

ウ 敬老会

敬老会ではお祝いの気持ちを表すために、4年生は合唱を、5年生はお祝いの言葉の呼び掛けやダンスを発表した。また、敬老会でお年寄りに贈るお祝いの手紙を書く活動を、全校児童で取り組んだ。

(3) その他

ア 「人権の花」運動への取組

JRC委員を中心に、「人権の花」運動に取り組んだ。花を育てる活動を通して、人と協力することの大切さや、命の尊さを学ぶことができた。



【人権の花運動】

イ 人権メッセージ

全校児童で人権メッセージを書く活動に取り組んだ。家族や友達への感謝の気持ちや、いじめや差別で苦しんでいる人に向けた心あたたまるメッセージを書き、特によく書けていた作品は人権コーナーに掲示し、全校で共有した。

ウ あいさつ運動

JRC委員を中心に、毎朝あいさつ運動を行った。児童全員が元気なあいさつができるように、給食の時間にあいさつを返した人数や特に元気な声であいさつをした児童の名前を発表したり、あいさつの大切さを呼びかけるポスターを掲示したりした。また、運営委員が扮する諏訪小学校のイメージキャラクターも加わり、あいさつ運動への関心を高めることができた。



【あいさつ運動】

3 成果

教育活動全体を通して人権教育を進めていくことで、自分の良さや他者の良さに気付くことができ、周りの人に対して思いやりの心をもって接することができるようになってきている。

II 今後の課題

来年度も引き続き、教育活動全体を通して人権教育を推進していきたい。また、体験活動などで養われた人権意識がさらに豊かに育っていくよう、学校だけでなく、地域、家庭と協力・連携し合って、児童一人一人の良さを地域社会全体で認められる環境作りに努めたい。

III 人権コーナー設置の様子



【人権メッセージや募金の掲示物】



【ハートフルコーナー】



【あいさつポスター】